株式会社横浜アリーナ

第39期 事業報告

2023年 4月 1日から
2024年 3月31日まで

— 目次 —

- 1) 事業報告
- 2) イベント分野別稼働実績

事業報告

2023年4月 1日から

2024年3月31日まで

株式会社横浜アリーナ

1. 事業の経過および成果

2023年度は、前期までに休館を伴う2022年大規模改修工事を終えて、期首より通年稼働で始まった一年になりました。

営業を取り巻く状況については、世界情勢や経済動向から電気代高騰想定は外れたものの、物価高や円安が継続する傾向の中、新しい施設の開業により、平日の受注獲得に影響が出始めました。また特に週末イベントにかかる人手不足や機材不足等により、他会場では実際に催事が中止になる事例が発生し、コロナ禍前とは異なる様相を帯びてきました。

この変化に富んだ厳しい事業環境の下、コンサート需要は引き続き堅調であったこと、及び戦略的かつ能動的なスペースコントロールにより、稼働日数は302日（キャンセル22日を含む）、稼働率は82.5%の受注となりました。そして当期の来場者数は、約187万人となり、1989年4月の開業からの来場者数は累計で約5,635万人に達しました。

施設の安全安心に向けた取り組みに関しては、通路ピクトサイン工事やロールスクリーン追加設置工事等を計画通りに完了させ、「安全」「安心」「快適」の向上を実現することができました。また、安全点検については計画通り実行したほか、ヒヤリハット事例の共有と再発防止策により、事故や災害の予防に努めてまいりました。

併せて、コーポレートメッセージ「その想い、つながる。」をはじめとする企業理念やミッション等に基づき、その浸透のための取り組みやアクティブな企業風土の実現に向けた取り組み、広報活動、及び地域に根差した活動を継続して実施しました。特に地域の皆さまのことを思い、前期の取り組みを更に一歩進め、地元港北区役所と連携して、メインアリーナを利用した「2023ふるさと港北ふれあいまつり」と「秋のヨコアrikunまつり」の合同開催を継続し、「地域の皆さまにとっての創造的拠点へ」に向かい、また一歩前進することができました。

経営成績につきましては、受注獲得と通年にわたるメリハリのある支出の結果、売上高が2,568百万円（前期1,807百万円、対前期42.1%増）、売上原価は1,385百万円（前期1,204百万円、対前期15.0%増）、販売費及び一般管理費は370百万円（前期323百万円、対前期14.5%増）となりました。

これらにより当期の損益は、営業利益812百万円（前期営業利益278百万円、対前期191.1%増）を計上し、経常利益が832百万円（前期経常利益156百万円、対前期430.3%増）、当期純利益576百万円（前期当期純損失81百万円）となりました。前期実績比では増収増益、年初予算との比較では、売上高及び全ての段階利益（営業利益、経常利益、当期純利益）が目標値を上回る数値になり、現行中期経営計画の計画数値（コロナ前水準）も達成する結果となりました。

以上

2023年4月～2024年3月 イベント分野別稼働実績

2023年度 実績		ショー コンサート	集会 式典	展示 物販	スポーツ	合計	稼働率 (%)
2023年4月 ～ 2024年3月	件数	69	14	2	6	91	82.5%
	日数	238	39	6	19	302	
	本番日	131	21	4	11	167	(注)
	構成比	78.8%	12.9%	2.0%	6.3%	100.0%	

(参考)

対前年 同時期 増減数	件数	21	5	1	4	31	2021年4月 ～ 2022年3月 稼働率	
	日数	62	15	3	15	95		25.8%
	本番日	21	10	2	8	41		
	構成比	0.6%	6.3%	0.6%	4.4%	0.0%		
2022年4月 ～ 2023年3月	件数	48	9	1	2	60	66.6%	
	日数	176	24	3	4	207		56.7%
	本番日	110	11	2	3	126		
	構成比	85.0%	11.6%	1.4%	1.9%	100.0%		

(注)

※2022年4月～2023年3月までの稼働日数207日の内訳は、有観客（収容人員制限あり）5日、有観客（収容人員制限なし）194日、無観客（ライブ配信・収録）0日、キャンセル料発生（稼働計上）8日となっております。